

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Communication Theory Laboratory		
英文授業科目名	Communication Theory Laboratory		
開講年度	2007年度	開講年次	3、4年次
開講学期	5、7学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-国際科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	外山 昇		
居室	P-613		

公開E-Mail	授業関連Webページ
toyama@fedu.uec.ac.jp	http://www.fedu.uec.ac.jp/~toyama/

【主題および達成目標】
<p>この授業は、Communication Theoryの授業の演習です。この授業を受講する人は必ずCommunication Theoryの授業を受講してください。演習だけを履修することはできません。この演習では、Communication Theoryの授業で出題される問題（通常5問）を解く手助けをするものです。従って、この演習の時間までに全ての問題（通常5問）を自宅で解いていれば、演習の時間に提出するだけで、授業の終わりまで、教室にいる必要はありません。提出した解答はすぐに採点され、次回の授業の時に返却されます。このとき、間違えていた問題については、次回の演習の時間に再提出する必要があります。演習問題の答えを1回でも提出しないと、単位を取得出来ませんので注意して下さい。この授業の目的、達成目標については、Communication Theoryのシラバスを参照してください。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
Communication Theoryのシラバスを参照してください。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
Communication Theoryのシラバスを参照してください。

【教科書等】
Communication Theoryのシラバスを参照してください。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【授業内容とその進め方】

この演習にはTAがつきます。英語で親切に教えてもらえます。もし、日本語の方が分かりやすい時は、日本語でも教えてもらえます。英語に自信がなくても、英語で出題された問題を理解し、その問題を解くための時間を割ける人は、この演習の授業でいい成績を収めることが出来るはずです。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

全部で約75問(5問/週)×15回)の問題の平均点で成績を評価します。再提出の問題の得点は50%に減点されます。成績評価は以下のとおりですが、一度でも答案の提出を怠ると、単位を取得出来ませんので注意して下さい。また、この演習における得点はCommunication Theoryの成績に10%反映されますので、Communication Theoryで良い成績を取るためにはこの演習でも良い成績を取る必要があります。

90点以上：秀、80 - 89点：優、70 - 79点：良、60 - 69点：可、59点以下：不可

【オフィスアワー：授業相談】

授業中に予約するか、電子メールで連絡してもらえば、出来るだけ相談に応じるようにします。

【学生へのメッセージ】

この授業は、英語で出題される問題を英語で解答する演習の授業です。英語を話す必要はありませんが、TA初め、多くの留学生と、英語で問題の解き方を、教えたり、或いは教えてもらったりできるいいチャンスです。活きた英語力を測るパラメータは、英語を話す人がどれだけ聞き手に英語で役に立つことが出来るかです。通信の基礎学力を持っている人は、英語で如何に人に役にたてるかを肌で感じることできる大変いい機会です。是非、この演習の授業で、活きた英語力を身につけ、同時に世界に通用する通信の基礎を身につけるよう頑張ってください。

【その他】